

アスパラガス調査方法

1 試験区ならびに調査対象株数及び面積

項 目	必要株数(最少株数)	必要面積(最小面積) *
試験区(1区当り)	20株×3反復=60株(10×3=30株)	27.0㎡(13.5㎡)
調査対象(1区当り)	生育調査等	20株(10株)
	収量調査等	20株(10株)

* 露地グリーン栽培で栽植距離を畝間150cm×株間30cm、a当たり222株としたときの面積

2 耕種概要

項 目	単 位	備 考
栽植密度	株数	(株/a)
	畝幅	(cm)
	株間	(cm)
1区面積		(㎡)
反復数		(反復)
播種期		(月日)
中耕培土等		(月日、月日)
前作物		()
堆肥施用		(kg/a、月日)
基肥量	N	(kg/a)
	P ₂ O ₅	(kg/a)
	K ₂ O	(kg/a)
追肥量	N	
	P ₂ O ₅	(kg/a)
	K ₂ O	(kg/a)
	K ₂ O	(kg/a)
追肥施用日		(月日、月日)
土壌区分		
土性		
腐植		
除草剤・病虫害防除		(薬剤名、月日)

3 生育調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
植付後年数		全体の株を対象	A	観察	年	1
萌芽始		50%の株で萌芽を確認した日	A	観察	月日	1
収穫始		収穫開始日	A	算出	月日	1
収穫終		収穫終了日	A	算出	月日	1
収穫回数		収穫を実施した回数	B	算出	日	1
生育 (枯葉期)	草丈	最長茎の長さ	B	測定	cm	1
	茎数	畝畦1m当たり径5mm以上の茎数	B	測定	本	1
	茎径	地際部の最大径	B	測定	cm	0.1
	GI	草丈×茎数×茎径	B	算出		
	茎葉重	枯葉期	B	測定	kg	0.1
全雄性	雄株率	(雄株/全株)×100	A	算出	%	1
病虫害の発生程度(枯葉期)	茎枯病	甚(4)～無(0)	B	観察	指数	1
	斑点病					
	灰色かび病					
	紋羽病					
	虫害					
	その他					

4 収量調査 (a当たり)

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁 調査
収穫本数	規格内	調査地の規格による	A	測定	本	1
	小茎	8g未満	A	測定	〃	1
	規格外	下記の障害茎の重量	B	測定	〃	1
収量	規格内	調査地の規格による	A	測定	kg	0.1
	小茎	8g未満	A	測定	kg	0.1
	規格外	下記の障害茎の重量	A	測定	kg	0.1
	切り下	調製時に発生する切り下の重量	A	測定	kg	1
総収量		規格内収量+規格外収量+切り下	A	算出	kg	0.1
規格内収量割合		(規格内収量/総収量)×100	A	算出	%	1
規格内平均一本重		規格内重収量/規格内本数	A	算出	g	1
障害茎の発生(率)	さび症状	(各本数/収穫本数)×100	B	算出	%	1
	割れ					
	空洞					
	扁平					
	曲がり					
	病虫害					
	その他					

5 特性調査

項目	調査基準	ランク	調査	単位	最小桁
					調査
頭部のしまり	良(5) 中(3) 不良(1)	A	観察	指数	1
頭部のアントシアニン着色	多(5) 中(3) 少(1)	A	観察	指数	1
基部のアントシアニン着色	多(5) 中(3) 少(1)	A	観察	指数	1
色	黄 白 緑 紫	A	観察	指数	
揃い	良(5) 中(3) 不良(1)	A	観察	指数	1
食味	良(5) 中(3) 不良(1)	A	官能	指数	1

6 調査試験栽培上の留意点

- 1) 調製時の若茎長は地域での出荷基準に合わせる。
- 2) 収量調査の精度を確保するためには収穫作業は毎日実施した方が良い。